

明石市家庭バレーボール審判講習会 資料

期日：令和8年9月12日(土) 13:00～

会場：明石中央体育会館 第2競技場

主催：明石市家庭バレーボール連盟

～ スケジュール ～

12:30～	受	付
13:00	開	会

- ・ 試合開始からの流れと手順について
- ・ 質疑応答

閉 会



- ① 主審、副審は笛を忘れない（2種類）
- ② 判定の一貫性…（両チームに対して）
- ③ 審判員が目立たない…あくまでゲームをスムーズに進行させる補助者
- ④ 疑わしきは罰せず…反則の摘発者ではなくゲームの流れをコントロールする役目
- ⑤ 毅然と判定を！…不遜でなく（思い上がった態度、高慢な態度でなく）
- ⑥ ルールブックをよく読む
- ⑦ トラブルが起きた時
 - ※ 主・副審で決定すること（本部や審判長に裁定を求めない）
 - ※ 試合後に報告 → コート責任者 → 本部
- ⑧ 審判員も試合をしているという意識をもって臨む

◎選手は明石市家庭バレーボール規則第4条（競技者の権利及び義務）ならびに第5条第1項（競技者の服装）を厳守すること

明石市家庭バレーボール規則第4条（競技者の権利及び義務）

- 1 すべての競技者は、競技規則を知り、これを守らなければならない。
- 2 競技停止中、競技者はチームの主将を通じてのみ、主審又は副審に対して発言することができる。
- 3 競技者、交代競技者及び監督の行為
次の行為は行なわない。
 - (1) 審判の判定に対して執ように話しかけること。
 - (2) 審判の判定に影響を及ぼすような不快な動作や態度を示すこと。
 - (3) 審判に対して好ましくない批判をすること。
 - (4) 相手チームの競技者に対して不快な言動を発すること。
 - (5) 競技中、主審の許可なくコートを離れること。以上のような場合、ささいなものは、警告を発し、くり返す場合又は重大な反則は相手チームに1点を与える。個人的反則をくり返す違反者は失格させることができる。

競技規則 3 ページより抜粋

ルールを守り競技するのは当然ですが、勝敗にこだわりすぎて、ルールの盲点についてルール違反すれすれの競技をすることは好ましいことではありません。また、判定は審判員を信頼し、判定は一任しなければなりません。誠意をもって行っている審判員も私たちの仲間なのです。

競技規則 前書き「発行にあたり」より抜粋

- ① 審判のチームは打合せを必ずする
- ② 両チームの主将を呼んでトスさせ、サーブかコートを選択
（主審立会いの上です。選択は両チームに聞く）
- ③ チーム練習開始（5 分間、副審計時、各チーム 1 試合目のみ）
- ④ 両チーム全員エンドライン整列
（主・副審・線審も整列、オーダー記録者は記録機のところで起立）
- ⑤ オーダー記録者は順番を確認、主審が吹笛
- ⑥ 公式練習開始（合同で 2 分間、副審計時、各チーム 1 試合目のみ）
- ⑦ ネット・審判台など点検（主・副審）
- ⑧ 副審・オーダー記録者がポジションの確認（背番号）
- ⑨ 公式練習終了の吹笛（副審）
- ⑩ 試合開始の吹笛（主審）
 - （ア）サーバーが出てくる
 - （イ）サーブ体勢をとる
 - （ウ）サービス許可のホイッスル

※主審と副審の任務（分担）を知る

- | | |
|----------|--------------------------|
| （例）サーブ時 | 主審・・・サービングチーム |
| | 副審・・・レシーブ側のアウトオブポジションを見る |
| タッチネットの時 | 主審・・・ネット上端部 |
| | 副審・・・ネット下端部 |

主 審

- ① 審判の位置はその目がネット上 50～70cm くらいにあるのが適当である
ネットプレーの時は、視線をネットの白帯まで下げる
- ② ボールがデッドになった時点で吹笛 → 判定のシグナル → ポイントのシグナル → スコアの確認 → オーダー記録者（次のサーバーと相手の B R の番号の確認） → レシーブ側の確認 → サーブ開始の笛（フットフォールトは無いか気をつけて見る）
落ち着いてはつきりと 吹笛を明確に
- ③ ボールがデッドの時はタイムアウトかそうでないか、わからない状態にしておかない
- ④ ライン際のボールは必ず線審を見るように心がける
- ⑤ 副審から送られるサインに気をつける
- ⑥ サービングオーダーの誤りについて、その処置が決定したら両主将に説明する
- ⑦ どちらかのチームが 14 点になったら、サーブ権がどちらにあるか気をつけておく
- ⑧ セット間に次のサーバーと相手チームの B R の番号を副審と照合
- ⑨ 試合終了後、記入した結果表を速やかに本部に提出する

※ B R = バックライト（後衛の右、サーバー位置）

① 副審の心得

- ・時計を忘れない（本人が見やすく使いやすいもの、デジタル可）
- ・インプレーの間、笛は常にくわえておく
- ・タイムアウト・メンバーチェンジの吹笛は主審の吹笛に気をつけて、タイミングよく吹く
- ・ドリブル・ホールディング・オーバータイム等は小さくサインを送る
- ・主審と一緒にボールを追わないこと

② 副審の吹笛できるプレー

- ・ネットタッチ ・オーバーネット ・パッシングセンターライン
- ・制限プレー（バックアタック、中後衛のブロック参加）
- ・メンバーチェンジ ・タイムアウトの要求 ・タイムアップ
- ・アウトオブポジション ・サーバーのチェック ・マーカ外通過
- ・線審の合図に気が付いた時（フットフォールト） ・ボールの侵入

③ 2分間の公式練習が終わるとサーブ権のある方のコートに一步入り手を上げて吹笛する

④ タイムアウト（30秒以内）

タイムを取ったチーム側に一步入りシグナルをして主審に知らせる

⑤ タイムアップ

タイムを取ったチームが30秒以内で解散した場合は、その時点で吹笛

⑥ ボールのキープ

試合開始前・試合終了時 タイムアウト セット間 3セット目8点でのチェンジコート時

⑦ 主審の判定に異議のあるときはボールがデッドになった時に、吹笛のうえタイムをかけて意見を述べる

⑧ セット終了時のサービスチームに気をつける（セット終了後、オーダー記録者に次のサーバー、相手チームのBRの番号を確認し、主審に伝える）

⑨ 吹笛を明確に

⑩ 主審とのアイコンタクトをとる

⑪ 試合終了後、コート脇ボードの試合表に試合の結果を記入する

① だらけた姿勢にならない

② ボール拾いはしない

③ アウト・セーフのシグナルは、主審が見るまでハッキリと上げる
（1m内外に落ちたボールはジャッジする）

④ ワンタッチの合図

⑤ フットフォールト、アンテナ外の通過を確認した時はすぐに旗を振る

⑥ 主審が気づかなかった時はボールがデッドになってから伝える

⑦ イン、アウトはボールの接点がラインにかかっているかないかで判断する

① 得点が入りサーブ権が移動する時、サーブをする直前にサーブをする人の枠に斜線を記入する

③ アウトオブポジションやサーブ順の間違いが発覚した時は、速やかにベルを鳴らす

④ サーブ順を聞かれた場合伝えてもよい（キャプテン以外でも可）

間違えていた時に聞かれない場合は伝えなくてよい

- ① ポイントのシグナルが出てから、主審が確認できるようにめくる
- ② セットを取ったチームのネームプレートの下に赤いマグネット棒を貼る
- ③ 副審や記録からも得点が見える位置に立つ
- ④ セットが終了した時、結果の記入を確認してから戻す
- ⑤ 1 点から 9 点の時、十の位は無地にする

Memo

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.